性別特有のがんについて

主に性別により異なる器官のがんを指します。女性の場合は乳房、子宮、卵巣がんなど。男性の場合は前立腺がんなどが主です。日本のがん統計では、がんの罹患率は男女別でみた場合、男性の場合は「前立腺がん」女性の場合は「乳房がん（乳がん）」が最も多くなっています。



■性別によるがんの種類について

女性

乳がん



乳腺の組織にできるがんです。進行すると血液やリンパ液の流れなどに乗って転移することもあります。転移しやすい場所は乳房の近くのリンパ節、骨、肝臓、肺、脳などです。男性の場合でも乳がんが発生することもあります。

子宮頸がん

子宮の入り口にあたる「子宮頸」で発生するがんです。子宮頸がんの 95%は HPV（ウイルス）が子宮頸部に２年以上持続して感染していた人から発生します。HPV に感染したからと言って必ず子宮頸がんになるわけではありません。多くの場合は身体の免疫機能によりウイルスは時間経過とともに少なくなり、検査では検出されなくなりますが、長期間（２年以上）ウイルスが検出される場合にはその後数年かけてがんになる前の状態（前がん病変）を経て子宮頸がんが発生することがあります。

子宮体がん

子宮体部にできるがんです。進行すると子宮頸部や膣、リンパ節、卵巣、卵管に広がります。

卵巣がん・卵管がん・腹膜がん

これらは発生する場所が異なりますが、がん細胞の性質や治療法が共通していることからまとめて「卵巣･卵管･腹膜の上皮性腫瘍（特に漿液性がん）」として扱われることが多くなっています。

男性

前立腺がん



前立腺は男性のみに存在する臓器です。早期には自覚症状がなく、PSA などの腫瘍マーカー検査以外だと発見は難しいです。進行すると頻尿や血尿、骨への転移による腰痛などで自覚症状が現れることがあります。

■発見・予防について

子宮に関する異常の兆候は不正出血などからわかることがあります。子宮体がんの他に子宮筋腫やポリープなどの子宮の病気が原因で起こることがあります。他にも月経の出血量が異常に多い場合も含まれます。

そのため、不正出血がある場合は検査を受けて早期発見につなげることが重要です。

■がん検診について



女性の場合は厚生労働省が定めた指針において子宮頸がん、乳がんの定期的ながん検診が推奨されています。

男性の場合は自治体にもよりますが大阪市の場合、前立腺のがん検診については 50 歳・55 歳・60 歳・65 歳・70 歳の市民であれば PSA 検査を 1000 円～で受けることができます。

	対象のがん	検診を受けた方がいい人	検診を受ける頻度	備考
女性	子宮頸がん	性経験のある人	1 ～ 2 年に 1 回	年齢にかかわらず年に一回は婦人科で子宮と卵巣の健康状態をチェックしてもらいましょう
	子宮体がん	30 歳以上	毎年	
	卵巣がん	40 歳以上	毎年	
	乳がん	40 歳以上	毎年	マンモグラフィは 2 年に 1 回程度　月一回のセルフチェックも忘れずに
男性	前立腺がん	50 歳以上	1 年に 1 回 （※検査結果によっては 3 年に 1 回）	大阪市では 50 歳以降 5 歳おきに比較的安価に検査を受けられる

■男女共通のがんについて

これまでに説明した以外の男女共通のがんについても男女で罹患率が大きく異なるものがあります。特に顕著なものは胃がんと肺がんです。どちらも男性の方ががんになりやすく、日本の 2023 年の統計では女性の約 2 倍がんにかかっています。がん罹患における男女の差は喫煙率の差、飲酒習慣や各種ホルモンに関係しているともいわれることがありますが、不明な点も多くはっきりとした原因は分かっていません。ただ、統計データ上では男性の方が女性よりもややがんにかかりやすいと言えます。

この紙面で説明している以外のがん（胃がん、肺がん、大腸がん等）についても各自治体ががん検診の呼びかけを行っています。年齢層により頻度や検査内容は異なりますが、適宜がん検診を受けて早期発見早期治療につなげられるように日ごろから心がけると良いでしょう。



【参考文献】 国立がん研究センターがん情報サービス　(https://ganjoho.jp/public/cancer/index.html#search-parts-item-08)

■内容に関する問い合わせは　産業保健・健康管理事業部　TEL:06-6312-5000（代表）